新潟県立長岡聾学校 学校だより

はくちょう

令和6年3月7日発行



〒940-0093 長岡市水道町 2-1-13 TEL 0258-32-1007



「卒業と進級を祝って」

高田分校教頭 山田 聡

「一月往ぬる二月逃げる三月去る」といいます。正月から3月までは行事が多く、月日が足早に過ぎてしまうことをいったものです。新型コロナ感染症が5類となり、少しずつ行事等も感染以前の状態に戻りつつあります。保護者や地域の方々から、ご理解とご協力をいただきましたことに感謝を申し上げます。

いよいよ今年度のまとめとなる3月を迎えます。子どもたちの成長には、一人一人の頑張りと努力が、そして、それを支えてくださったたくさんの人の励ましがあったことと思います。是非、ご家庭でも、卒業や進級を前に1年間を振り返り、お子様の成長を一緒に喜んでください。また、子どもたちには、一日一日を大切にして、クラスの友だちや先生と、多くの思い出をつくってほしいと思います。3月8日には、高等部産業技術科が4名、普通科が4名、計8名が卒業します。また、3月21日には、幼稚部3名、小学部1名、中学部6名、計10名が卒業します。卒業生と保護者の皆様に心からお祝い申し上げるとともに、子どもたちへの指導・支援に関わってくださった多くの方々へ厚くお礼申し上げます。また、他の学年の子どもたちも1年間の総まとめに取り組んでおります。進学・進級への大切な残りの日々、変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

ところでみなさんは、長岡聾学校の歴史について知っていますか?長岡聾学校は、明治 38 年に私立 長岡盲唖学校として設置されました。その後県立となり、昭和3年に長岡盲学校が併設されました。昭和 12 年には、ヘレンケラーも来校しています。昭和 35 年に幼稚部、昭和 37 年に寄宿舎、平成9年に高等 部産業技術科、平成 13 年に難聴通級指導教室、平成 14 年に子どものきこえ相談室、平成 22 年に高 等部普通科、平成 24 年に高田分校、平成 27 年に小出分教室、平成 31 年に高田分教室と小出難聴 通級指導教室が設置されました。このような歴史を経て、今の長岡聾学校があります。さて、3月 10 日は、 長岡聾学校の創立記念日です。いよいよ令和6年度には、120 周年を迎えます。このような歴史を感じ ながら、様々な行事に取り組んでいってほしいと思います。

今年度は、子どもたちの学校生活に際し、たくさんのご協力をいただきましたことに、大変感謝申し上げます。令和6年度は、さらに幼児児童生徒の活躍する姿をご紹介できるように取り組みたいと思いますので、これからも皆さんのご理解・ご支援をよろしくお願いいたします。



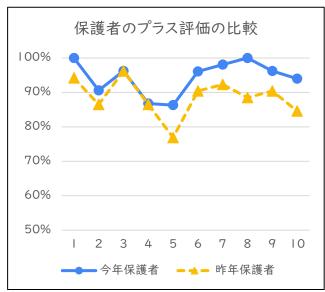
「令和5年度の教育活動の振り返りと次年度の課題」

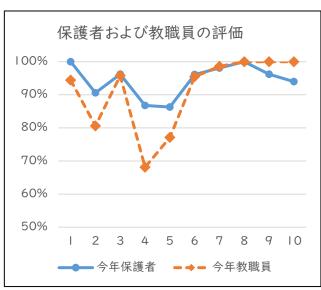
本校教頭 三村 陽子

12月に学校評価アンケートを保護者と教職員に行い、以下のとおりの結果となりました。

【アンケート項目】 回答方法 A思う Bやや思う Cあまり思わない D思わない Eよく分からない

- ①子どもは、授業で学んだことが身に付いていると思いますか。
- ②子どもは、自分で考えたり、自分で決めたりする態度が身に付いていると思いますか。
- ③子どもは、集団や社会のルールを守り、他人を思いやる気持ちが身に付いていると思いますか。
- ④子どもは、健康的な生活習慣や、運動・スポーツに親しむ態度が身に付いていると思いますか。
- ⑤子どもは、語彙力や言語力、状況に応じたコミュニケーション力が身に付いていると思いますか。
- ⑥学校は、地域や他校と交流する活動に適切に取り組んでいると思いますか。
- ⑦学校は、子どもたちが分かりやすい、工夫した授業が行われていると思いますか。
- ⑧学校は、一人一人の子どもを大切にして、誠意をもって教育活動を行っていると思いますか。
- ⑨学校は、子どもの支援のため保護者・関係機関と連携していると思いますか。
- ⑩学校は、障害の理解や様々な研究・研修に取り組み、専門性の向上に努めていると思いますか。





保護者評価では、全ての項目でプラスの評価が 80%以上、学校に対する評価項目⑥~⑩の全てで プラス評価が90%以上でした。全体的に学校の取 組にご理解をいただいている現れだと考えます。

①と⑧で100%の評価でした。この評価に応えるよう「一人一人の子どもを大切にした教育活動」を継続していきます。

教職員評価では、評価項目(2)(4)(5)

が保護者評価より低い傾向でした。「主体性の育成」「健康的な体づくり」「言語活動の充実」のどれも、 聾学校に在籍する子どもたちにとって必要な力です。 「目指すこどもの姿」を明確にするとともに、研究・研修に取り組んだことを子どもたちの教育に還元していきます。

2月 20 日(火)には、学校評価委員会を行い、委員の皆様から、学習活動を参観していただくとともに、学校評価の説明をし、ご助言をいただきました。コロナ禍を経て、ICT 機器の活用や個に応じた指導の推進について、評価いただきました。また、地域での活躍や研究・研修成果について、発信力を高めてほしいとご助言をいただきました。

今年度のきこえ相談について

支援部

今年度も、夏のきこえ相談会を実施いたしました。コロナウイルスは5類へと移行しましたが、まだ安心できません。コロナ禍での感染拡大防止のため、昨年度までの配慮(動線を分ける、手指の消毒など)を引き続き行いました。今年度は、のべ18件の相談がありました。今年度はあまり多くの相談はなく、昨年度よりも少し減少しました。そのため、定期的な聴力測定や相談が必要な子どもたちが来られていないのではないかという心配があります。当校の夏のきこえ相談会の PR の方法も見直す必要があるかもしれません。また相談に当たっては、在籍する学校の先生方や保護者の方との情報共有も欠かせません。難聴がある児童生徒の皆さんが、きこえについての対処に学校でできるだけ困ることなく、過ごせるように連携して進めたいと思います。

支援部では通年「子どものきこえ相談室」を設置しています。新生児聴覚スクリーニング検査で難聴の 疑いを指摘された乳幼児をはじめ、小学生以上の子どもたちへの支援を行っています。今後も難聴児や その保護者への支援と、関係機関への理解啓発に努めていきます。

「石をどのように積むのかは君次第だ」

進路指導部

標題の言葉は、昨年公開された映画「君たちはどう生きるか」(宮崎駿原作・監督・脚本作品)のクライマックスの場面で、主人公の大伯父が(主人公に)言った言葉です。このストーリーは、現実から異世界に引きずり込まれた思春期の少年が、次々と目の前に迫る



困難や正義や悪、不条理や無常と向き合う過程の中で、「自分の生きる意味を見つけていく」心の葛藤 (成長)が描かれています。主人公は、最終的に自分の進む道として、あえて困難が待ち受ける現実世界 に戻ることを決断しました。宮崎監督は、この映画を通して「自分自身で考え、答えを導き出すことに意味 がある。生きると言うことは何かを考え、自分の石を積み上げていってほしい。」というメッセージを発して いるのではないかと思います。(鑑賞した人の受け取り方はさまざまです。)

さて、経済産業省で設定した「社会人12の基礎力」のうち、9割以上の企業で最重要視する能力が「**前に踏み出す力」**だそうです。これは、「人から言われて行動を起こすのではなく、自分の意思と決意、意欲をもって率先して取り組んでいくこと」の意味をもっており、「自己打開力」(困難などの事態に対しても、主体的自発的に挑んでいく)にもつながっています。前述した「石」で例えてみるならば、目標や課題に向かって、「石を積み上げようか並べようか」「どんな石を?どんな方法で?」「角度は?いつ?どこで?」「崩れたら次はどうしようか」などと思考し、自分らしい石の塔を構築していく(自分の人生を築いていく)、ということでしょうか。

人生は、仕事においても生活においても、さまざまな選択を迫られます。その時は、周囲の力を借りながらも自分自身の考えをもち、勇気をもって行動に移せる人になってほしいと思います。自分の人生の主人公はもちろん「自分」ですから。

	学 部	卒業生数	進学先志望先・進路先()内は人数
中学部		6	本校高等部(4) 県内高等学校志望(2)
高	産業技術科	4	筑波技術大学(2) 就職(I) 福祉サービス事業所(I)
等	普通科	4	就職(2) 新潟テクノスクール総合実務科(1) 福祉サービス事業所(1)
部	産業科(専攻科)	0	

令和6年3月卒 中学部・高等部進路状況 (令和6年3月7日時点)

※高等部卒業の皆さん、一つ一つ、あなたらしい石を積み上げていってください。応援しています。

今年度の寄宿舎の様子

- ○4月に新しい仲間を迎え、寄宿舎ライフがスタートし、早くも1年が経とうとしています。今年度は新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症となり、以前のような寄宿舎の生活様式に戻ってきました。その上で、たくさんの行事を実施することができました。
- ○七夕には本物の大きな笹に飾りを付けて、短冊に一人一人願いを託して飾ったり、節分ではそれぞれの「やっつけたい鬼」を発表して、鬼に向かって豆まきをして鬼退治をしたりしました。お楽しみ会は2回実施し、I学期は夏祭りのような雰囲気の中、水ヨーヨー釣りや射的、花火等を行いました。2学期は3つのグループに分かれ歩いて長岡駅まで行き、好きなお店で食事をして楽しむことができました。どの行事も大いに盛り上がりました。
- ○安全面では、地震や火災を想定した避難訓練を行うとともに、様々な災害を想定した集合訓練を定期 的に行い、災害時に迅速に避難できるように心掛けています。
- ○寄宿舎には、小学部3年生から高等部まで幅広い年齢の子どもが在籍しています。お互い協力しながら、色々な生活経験を通して共に成長していけるところです。これからも子どもたちの笑顔が続く安心、安全な寄宿舎にしていきたいと思います。

